

史跡米子城跡保存活用計画（素案）に対する意見募集（パブリックコメント）の結果について

No.	意見の概要	意見に対する市の考え方
【保存・管理に関すること】		
1	<p>米子には3つの宝があるといわれている。大山、鉄道、医大であるが、その鳥取大学医学部が用地不足に悩んでおり、学生用グラウンド、外来患者の駐車場、附属病院の再開発のための土地として、隣接する湊山球場敷地の提供を求め、米子市に要望書が今までに2度提出されている。</p> <p>そして昨年、市民有志による署名が約17,000集まり、米子市長と米子市議会に要望書が提出されている。鳥大医学部と附属病院の発展は「先端医療創造都市」を目指す米子市にとって若者の定住、雇用、医療企業の誘致など米子市に繁栄をもたらす宝である。</p> <p>また、新聞投書でも「米子の活性化のため地場産業を創り出すことこそ肝要であり、地方創生に合致する医療産業都市の実現に踏み切るべきではないか。私達の子孫のために、活気あふれる健全財政の住みよい米子の将来を目指して湊山球場の有効活用を願うのみ。」「鳥大医学部の充実発展が重大な関心事であり、地域医療のために尽くされた功績は大きく、全市民のさらなる期待は大きい。」といった意見が述べられている。</p> <p>湊山球場の敷地が史跡公園として指定されると、いかなる転用もできなくなることを踏まえて、湊山球場敷地は追加指定しないという、米子市長及び関係者のご英断をお願いします。</p>	<p>米子城三の丸の中心部に位置する湊山球場敷地は、米子城の行政面の中枢部にあたる箇所でもあり、絵図によると米蔵、馬屋、番士詰所、作事方詰所、作事小屋、内堀などがあって、城の全体像を理解する上で重要な場所だったと考えられます。</p> <p>城跡の三の丸については、全国的にみると、裁判所や県庁等の公的機関が設置されるなど宅地化されている場合が多く、米子城跡のように、幸いにも三の丸の中枢部が400年もの間宅地化されずに残っているケースは全国的にも珍しいといわれており、文化財としての価値は高く、この潤いと緑に囲まれた、郷土の歴史を体感することができる貴重な空間を保護し活用していくことが必要であると考えています。</p> <p>また、深浦は、米子城の軍港としての役割を担い、造船も行われたといわれる場所でもあり、出山は、深浦の見張り場や防御施設と考えられ、両者は海に面した米子城の持つ性格をよく表しており、湊山球場敷地と同様に、米子城の全体像を理解する上で欠かせない箇所であると考えられます。</p> <p>こうしたことから、湊山球場敷地、深浦、出山を追加指定し、これらを既存の史跡指定地と一体的に保護し、歴史的文化的資産である米子城跡を次代にしっかりと継承していくことが、私たちの世代の責務であると考えています。</p> <p>併せて、追加指定を行う箇所については、発掘調査等を実施し、史跡米子城跡の実態解明に努めるとともに、より多くの人に米子城跡に来ていただき、史跡に興味を持ち、その価値や魅力を再認識し、親しんでいただけるよう、史跡公園として整備を行い、その活用を図っていく必要があると考えています。</p> <p>なお、鳥取大学医学部からの要望書については、平成28年2月25日付で取下げられており、現在、湊山球場敷地の提供についての鳥大からの要望はないことを確認しています。</p> <p>鳥取大学医学部とは、今後とも、医工連携、医療、介護予防等まちづくりの様々な分野について連携を図ってまいりたいと考えています。</p>
2	<p>三の丸以外の出山、深浦、飯山などの追加指定は大賛成である。</p> <p>保存のために国史跡指定は大事だが、いったん指定になると取消しができない。近い将来に人口減少に伴う地方国立大学医学部の統廃合は必定と思われる。市町村の小中高等学校の再編は大学にも及び、鳥大と島大の合併は必定。土地がなければ大学、病院に歴史があり優秀であっても合併され廃校となる。貴重な文化財を次世代に残すことは大事だが、米子城の郭のひとつである三の丸は、調査、保存し、図面と資料の案内板で十分に理解できると思う。</p>	
3	<p>湊山球場（三の丸跡）は、国指定追加を保留し、調査（発掘）を早めて米子城の全体像を確認し、整備計画全体に活かすべき。</p> <p>全国に残る数少ない米子城三の丸は貴重であり、綿密な調査により、鮮明にされていない三の丸の城郭全体に及ぼす発見もあると思う。</p>	
4	<p>「史跡米子城跡保存活用計画」の湊山球場敷地の国史跡指定に追加することに明確に反対する。城跡の文化財は、二の丸の石垣から天守の区域を整備し、湊山球場敷地は鳥大医学部に提供すべきである。これからの米子市は鳥大医学部とともに発展することが最重要であると考えている。</p>	

No.	意見の概要	意見に対する市の考え方
<b>【活用に関すること】</b>		
5	<p>米子城天守に置いてあるノート「みんなの米子談話記」に書いてあるコメントを見て思うことを意見として述べる。「こんなに見晴らしの良い城跡は見ることがない！」など登頂された方がとても良い印象を持たれているのかわかる。</p> <p>景色は随一であるが、残念ながら知名度がかなり低い。全体的な知名度を上げるのはもちろんだが、まずは米子市民で行ったことのない人が多すぎるのが本当に残念である。一度でも訪れたらその良さはわかると思うのでまずは来てもらうことだと思う。</p> <p>米子城にみんなが足を運ぶようになるにはどうしたらよいか…まずはそこからではないか。管理保存はもちろんであるが、みんなから愛される米子の景勝地。みんなが休みの日には遊びに行くような憩いの場であってほしい。</p> <p>①何もないのがまた良いところでもあるかもしれない。また、史跡なので難しいかもしれないが、ちょっとしたカフェなどできないだろうか。</p> <p>②簡単に15分で登れる！というところをアピールする。</p> <p>③山が暗いイメージで不気味な印象もあるため、もう少し明るくする。</p> <p>④人集めの方法として、スタンプラリーやクイズラリーなどのイベントを行う。</p> <p>元旦の初日の出イベントなどは集客できて本当に良いイベントだったと思う。</p>	<p>米子城跡の天守からのパノラマ景観のすばらしさ、縄張や石垣など遺構の魅力については、市民、来訪者の皆様をはじめ、専門家の方々からも高く評価されていますが、ご指摘のとおり一般的な知名度が高いとはいえませんが現状です。</p> <p>このため、現在、まずは史跡として適切な保護を図るとともに、特に市民の皆様にも米子城跡の価値や魅力について広く知っていただき、理解を深めていただくよう考え、シンポジウムやフォーラム、写真撮影会などの開催、米子城及び城下町の魅力を伝えるガイドウォークや、城跡石垣の清掃活動、ライトアップの実施、市ホームページや広報よなごを通しての情報発信などを行っています。</p> <p>そして、これらのソフト事業や各種整備事業等を確実に推進していくため、米子城跡の史跡としての価値を明らかにし、今後、適切に保存活用するための基本方針について定める「米子城跡保存活用計画」の策定に取り組んでいるところです。</p> <p>今後、いただいたご意見を参考にして、米子城跡について、より積極的なPRに努めるとともに、本計画に基づき、活用に資するための様々な整備、保存と活用に関するための樹木の適切な管理、米子城跡の魅力を発信し、より親しんでいただけるようなソフト事業の実施などに取り組んでまいりたいと考えています。</p>
6	<p>お盆の夜に城山天守台で万灯を上げてはどうか。いわば「天空万灯」とでもいえるもので、たいへん美しく、また、お盆にふさわしく、若い力が結集した万灯を市民が見送る様は米子にしかできないことだと思う。</p>	
7	<p>「米子城騒動始末」の小説が発行されているが、この小説を映画化して全国に発信してはどうか。</p>	
8	<p>現状復元困難な米子城のAR（拡張現実）による復元は観光面でも人が呼べるので面白いと思う。</p>	
9	<p>米子城跡への案内標識や、米子駅構内などでの案内が不足しているのではないか。</p>	
10	<p>米子市内で行われている地藏祭に合わせて、城山の中腹にある石仏巡りを実施してはどうか。</p>	<p>城山中腹に設置してある石仏は、大正期に四国札所八十八ヶ所が勧請されたものであり、現在は、城山大師維持奉仕会の方々によって維持管理され、毎月21日の接待、4月21日の春祭りが行われています。</p> <p>一方、旧加茂川界限を中心に設置してある地藏菩薩は、地域に根付く地藏信仰に基づき、江戸期から現代に至るまでの間に設置されたものであり、自治会等地域の人々によって維持管理され、8月24日の地藏盆前日の23日に宵祭りが行われています。</p> <p>このように拠り所としている信仰は異なりますが、現在、観光ガイドや教育委員会によって、米子城跡、城下町などとも関連付けながらのガイドツアーなども行っていますので、今後もよりPR効果を高めていくようなルートの設定、日程の調整など検討してまいりたいと考えています。</p>

No.	意見の概要	意見に対する市の考え方
<b>【整備に関すること】</b>		
11	水手御門から深浦側へ下る道を整備し、深浦に船小屋、番人小屋を設置し、他の城にはない米子城の特質である海上防備の城を全国に発信してはどうか。	水手御門と深浦側を結ぶルートについては、現在、深浦側の中海展望所を通る既存の登城路がありますので、これを活用し、安全性、快適性に配慮した整備を図ってまいりたいと考えています。深浦の整備については、追加指定を行った後に、調査研究の成果を踏まえた適切な遺構整備の手法及び既存の園路とのアクセス等について検討してまいりたいと考えています。また、海に臨む城という米子城の特色については、引き続き積極的に発信してまいりたいと考えています。
12	二の丸の調査整備により、城主の居館跡、侍部屋跡などの礎石の復元と併せて、二の丸、内膳丸の案内板を設置してはどうか。 礎石の復元と大型案内板は、山頂天守では得られない山名から尼子の支配、吉川の築城、関ヶ原に想いを巡らし、中村、加藤、そして伯耆因幡の一国支配などの歴史を彷彿させる。	二の丸跡、内膳丸、本丸といった史跡指定地内の区域については、発掘調査や遺構分布調査、史料調査などの多様な調査研究を今後も継続的に実施していくこととしています。それらの成果を踏まえ、遺構の適切な保存整備と併せて、米子城跡に対する理解を深めるための案内板、解説板等の整備を図ってまいりたいと考えています。
13	内膳丸から本丸への登り石垣を整備してはどうか。	
14	枅形入口に二重櫓の復元はできないか。 頂上天守の天守閣の復元は、国史跡の制約と費用の面からも不可能と思われるが、せめて枅形入口の二重櫓の復元ができれば、米子城の威容、展望の価値は大きいと思う。	枅形の二重櫓など史跡指定地内における歴史的建造物の復元展示については、今後の調査研究の成果を踏まえ、「史跡等における歴史的建造物等の復元に関する基準」に照らしながら、整備計画の中での位置付けを検討してまいりたいと考えています。
15	国史跡の整備で最大限許される範囲で回遊路の整備をしてはどうか。 海陸両面の顔を持つ米子城の素晴らしい遺跡をゆっくり見ながら回遊路を歩く。楽しくなる米子城ならではの回遊路は、高齢者等も安全に登れ、米子城址が楽しめる市民の憩いの場になるとともに、観光客も呼び込むことができると思う。	登城路、回遊路などの園路については、既存の園路の活用を基本としつつ、遺構の保存や景観に留意しながら、歴史的理解を深めるための動線及び散策、レクリエーションのための動線などを確保し、安全、快適に城跡内を巡ることができ、多面的に米子城跡の魅力を体感できるよう整備を図ってまいりたいと考えています。
16	米子市が、天守閣はないが石垣を残した城跡としてその文化財的価値を後世に承継していくための保存措置として、発掘調査、石垣修復工事、樹木の適正な管理、景観の確保、文化財の保全、便益施設の充実をされることには全く異存はない。しかしながら、観光面、親しみやすさからも、残念ながら松江城などと比較してハンディキャップが大きいと思う。城山の頂上からの360度の景色は素晴らしいので、高齢者でも登りやすくする登山道の整備は是非していただきたい。	
17	現在大手門跡などが埋もれているために米子城跡への正面入口が無いに等しいため、正面ルートの設定をしてはどうか。	
18	資料館は城跡内にあるのが望ましいと思う。（例：月山富田城）それに伴い旧小原家長屋門は現在位置から適切な位置に移設が良いのでは。	米子城跡への理解を効果的に高めるための資料館（ガイダンス施設）については、設置場所、内容等を十分検討してまいりたいと考えています。なお、旧小原家長屋門につきましては、保存整備の方針が定まるまでの間、現在地において米子城跡のガイダンス的な利活用も検討してまいりたいと考えています。

No.	意見の概要	意見に対する市の考え方
19	米子城の石垣は歴史的価値があると講習会で聞いた。樹木が繁茂して石垣に入り込み、石垣を壊す恐れがあるので、樹木を整備してはどうか。	樹木の適切な管理については、史跡を確実に保存し、その価値等の保全を図るとともに、天守からの眺望や周辺地域からの景観、園路の通行の安全を確保し、石垣などの遺構の顕在化を図るため、喫緊の課題であると捉えており、伐採、剪定など計画的かつ継続的に実施してまいりたいと考えています。
20	樹木を剪定し、石垣と湊山がよく見えるようにしてほしい。 米子城頂上の天守からの360度の展望は日本一の絶景で、その上海と地上の四方すべてから城址が眺められる城は、全国でも他にない。しかし、樹木の繁茂によりそれができない。それは廃城以降の手入れ不足が理由であり、国史跡の整備の中で許可されるはず。早期に剪定していただきたい。	
21	外からの城山の眺望として、本丸及び内膳丸の石垣を阻害する樹木の伐採と石垣保全の観点から石垣に生育した木々は伐採が望ましく、その上で加茂川沿い、市役所、錦公園などのビューポイントを設定してはどうか。	
22	現在、登山ルートは樹木で鬱蒼としており、雨上がりでもしばらくぬかるみ状態のため、もう少し日の光が入るように木々を剪定してはどうか。	